

## チャレンジ！ 市場創造

日本睡眠改善協議会公認インストラクター・心理療法師等の資格を有する三島治氏（菊屋、静岡同友会会員）は、寝具店として、「共生・共眠」で、明日への希望の光を提供しています。「リズム睡眠法」という枕から始める物理的睡眠環境を提案することで、より良い眠りを人々に提供する「眠りの総合プロデュース」に自社の存在価値を見出しました。町の小さな寝具店から世の中に忘れ去られた蚊帳が蘇ったことや安眠を追求した枕、そして提唱するリズム睡眠法を実践する枕の「おとみん」（音と眠りの共眠）の開発。「人も企業も役に立ってこそ初めて生かされる」という経営姿勢から生み出された地域に生きる町の小さな寝具店の経営実践を紹介します。

### より良い眠りを提供します

（菊屋は静岡県西部にある磐田市、JR東海道線磐田駅から徒歩五分、地元のJリーグチームにちなんでジュビロードと名付けられた商店街の中で寝具店を営んでいます。

「より良い眠りを提供いたします」と店頭看板に掲げているのは、単に寝具を売るのではなくその寝具に秘められた本当の価値をお客様に提供することでこそ、役に立つてもらえるという思いからです。店を訪



ライフスタイルに併せて展開する麻の蚊帳。天然の麻生地が湿気を吸収、発散して蚊帳内の体感温度を下げる効果があり、夏の節電にも役立ちます。

## 健康で快適な眠りを提供することが自社の使命

地域に人に、役に立ってこそ初めて生かされる

安らぎを与える枕「おとみん」

（菊屋 代表取締役 三島 治氏（静岡）

れる不眠に悩むさまざまな人たち。頼りにされることに何よりうれしさを抱きながらも、現在までの道のりは決して平坦なものではありませんでした。

父の創業と急逝、そして承継

一九五一年、父・昇氏が

ている身からはなかなか脱却できず、あの手の手と販売営業に追われました。

内心では「物の時代は終わった。気づけ」と自らに言い聞かせながらも、自社と自分自身を変革することは容易なことではないと思っていました。

磐田市でも八〇年代ころから大型小売店が町の郊外へ進出してきました。寝具を寝具専門店で購入しなくとも手に入るようになり、従来の寝具店としては役立

### 【会社概要】

1951年 寝具・蚊帳の製造、販売  
設立 立種 所在地 静岡県磐田市中央243  
http://www.anmin.com/



「ねいるケアあんみん枕」とネイチャーサウンドが融合した「おとみん」（一式販売金額：39,900円）

提案と併せて枕や寝具を販売していた一九九七年、お客様から一件の相談がありました。その問い合わせは「頼む営業から頼まれる」営業に変わる出来事でした。

子どもがいて殺虫剤を使

いたくないというお客様の要望に応えるために、すぐに蚊帳をメーカーから仕入れて届けました。これを機

に、ネット販売を通じて、どこにも販売されなくなっ

た蚊帳を呼び起こし、提供する

ことでお客様に役に立つた

と喜んで頂きました。

そこに自社の存続の道がある

と気が付きました。「人も

企業も役に立ってこそ初めて生かされる」。本格的に蚊帳の販売と開発に乗り出し

ました。蚊帳への注目は日に日に増し、お客様の要望も多様化していきました。

洗濯できる蚊帳がほしい

従来の蚊帳は水洗いができない織り方でしたが、なんとお客様が要望に

応えたいという探しました。そこでたどり着いた先

は、静岡県の名産シラス漁の魚網を得意とする地元

の機織業者でした。

磐田市は古くから織物産

業の街で、磐田の伝統技術

を蚊帳に「天然麻の蚊帳の生地を磐田の伝統技術力

ラミ織りという魚網に適する技法で織ってほしい」と

何度も工場に足を運び、懇願したところ了承して頂

きました。

完成した生地と地元縫製

業者の技術によって洗濯で

きる蚊帳がついにできたの

です。連携した二社とも蚊帳の生地を取り扱うことは

初めての挑戦でしたが、地域の中で培われたノウハウ

に着目することで新たなビジネスモデルの展開を図

れることを知りました。

「共生から共眠」

蚊帳の博物館を設立

ベッド用やムカデ対策用の蚊帳も開発し、お客様の

要望に応えていきました。またパリ国際家具見本市に

出展したり、アフリカでは蚊帳は命を救うのだと、

ハンカチタオルの売上金を現地に寄付するマリア撲

滅運動も行ったりしました。一九九九年には、睡眠

環境学会で「共生から共眠」というテーマで睡眠に対

する考え方を提唱。そして二〇〇五年、自社に蚊帳の博

物館を設立し、全国へ発信しました。

「あんみん枕」から「おとみん枕」へ

三島氏は「わが社は蚊帳屋」と思われるかもしれま

せんが、菊屋は寝具店です。蚊帳の販売展開は快適な眠

りを提供するための一手段に過ぎませんと言います。

学会で学んだ枕理論と蚊帳の技術を結集した「ねいる

ケアあんみん枕」（寝入る前に枕を調整して、より安眠

を追求するという意）を開発し、さらにこの枕を進化

させるべく、睡眠中の呼吸リズムを整えるのに有効な

枕と音を融合させた枕の開発に取り掛かります。

オリジナルのあんみん枕

に、浜松市のスピーカー開

発会社と米国在住のネイチャーサウンド編集者の技術

を組み合わせて生み出された枕「おとみん」が完成しました。

既存の薄型ブックスピーカーを改良し、この枕のために開発した高音質・超薄型の「アンダーピロースピーカー」が使われています。これで安眠の課題であった睡眠時の腹式呼吸リズムを容易に創ることが可能になりました。

スピーカーから流れる3Dの音にもこだわり、不眠症患者にも処方されるネイチャーサウンド（自然な音）を採用しました。寝ている人はスピーカーの位置を感じることなく音の3D空間にそっと寝て居るという、ごく自然な状態に身を置くことができます。スピーカーを包むカバーは、丈夫で熱を持ちにくい天然麻の蚊帳の生地を使用することが適していました。

役に立つことが生きる力に

「より良い眠りを提供す

る」という経営姿勢を追求し見つめ直すことは、人々の明日への希望や活力を見

出す、まさに「生きる力」を育んでいることと言えま

す。「人は共に生き、育ち、そして眠る。今、世界で起

っているさまざまな暗い出来事も蚊帳の『外』でなく、

皆が蚊帳の『中』として捉えていくことで、社会の明

日が希望に満ち溢れた平和な世の中になれば」と三島

氏は熱く語りました。